

テーマ 「園庭の自然と植物」

【テーマの設定理由】

- ・自然や植物に触れることで、子どもたちの五感を通しての経験が増えると考えたため。
- ・泥団子作りや木の実集め、虫採集など普段から自然と関わる姿があるため、こちらのアプローチや整備により、その興味関心をさらに深めたり、季節を感じられるようにしたい。
- ・野菜やお米を育てることにより、食への興味が深まると考えたため。
- ・園庭にある自然（築山の起伏など）を利用した運動遊びをすることで、遊びの中で身体の使い方が身につき、身体面での育ちにつながると考えたため。

【活動スケジュール】

- ・4月～：野菜の苗を植える、園庭での運動遊びや自然物を使った遊び
- ・6月～：田植えをする
- ・7月～：野菜の収穫、泥遊び
- ・9月～：ザクロやどんぐりなどの木の実集め
- ・10月～：稲刈り、籾摺り
- ・11月～：ザクロを使ったクッキング

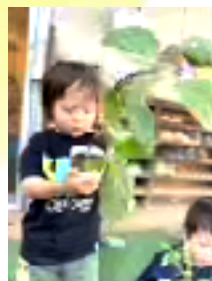
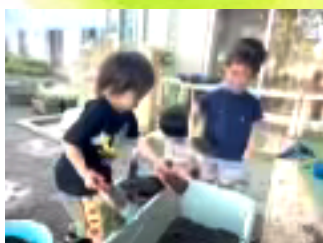
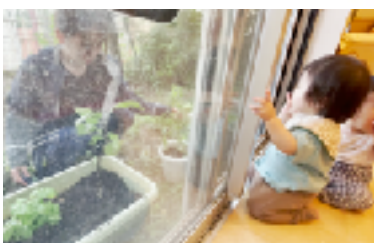
【活動のために準備した素材や道具、環境設定】

- ・トロ舟
- ・色々な種類の土
- ・野菜の苗
- ・ピタゴラ装置のための材料
- ・園庭の木々の剪定
- ・築山の整備

【活動内容】 食への興味

○野菜の苗を植える・育てる

ナス、きゅうり、トマト、ゴーヤなど、比較的育てやすく、収穫後にすぐに食べることができる夏野菜を子どもたちと植えました。植える時には、葉っぱの産毛や匂いに気づく姿もありました。一緒に植えたことで、子どもたち自身も野菜の成長を気にかけるようになり、園庭遊びの時に水やりをしてくれるようになりました。実が大きくなってくると「これは何かな？」と疑問に思う姿があったため、「なんだと思う？」と保育士が問いかけると、自分の経験から「これはきゅうりかな？」と予想を立てて考えていました。



○野菜の収穫・試食

野菜が成長し、食べられるくらいになったため、子どもたちの目の前で収穫をしました。いざ収穫するとなると、毎日園庭で見ていた野菜の変化にワクワクした様子の子どもたち。「食べてみたい」という子どもたちの声があり、食べてみることにしました。目の前で野菜を切ったことで、より断面に注目する姿がありました。ナスを切ると、中の種の様子を見て「メロンみたい」と例える子もいました。採れた野菜を食べると「美味しい！」という声がたくさんあがりました。また、野菜が苦手な子も食べてみようとして挑戦する姿がありました。



○田植え・収穫

食育の一環として、園庭で子どもたちと田植えをしました。1歳児の子は、いつも園庭で見る泥との違いを不思議そうにし、お玉などを使ってどのような感触か確かめている姿がありました。トロ舟で育てていたため、水が枯れてしまうこともありました。遊んでいる時に子どもたちが気にかけて水をあげてくれました。収穫をすると、ばななグループの子どもたちが興味を持ち、白米にする工程を調べてきてくれました。粳摺りという工程が必要だとわかり、粳摺りをしようとしています。「爪でやったけど、結構硬かったんだよね」と話してくれた子の発言から自分たちで相談し、すり鉢を使うことにしました。すり鉢にスプーンで押し付けますが、なかなかうまくいかず「結構硬いね」「全然割れないよ」と苦戦する姿もありました。コツを掴むと、玄米を取り出すことができました。



【振り返り】

食へ興味が深まるようにと、園庭で野菜やお米を育てるようにしたことで、どのクラスの子も気にかける様子がありました。成長の過程を見られたことや水やりなどのお世話をしたからか、野菜が苦手な子も食べようと挑戦しており、今回のような活動の大切さを感じました。お米は量が少なくて食べられませんでした。次に育てる時にはどうしたらいいか子どもたち自身が考える機会となったのではないかと感じました。また、野菜やお米の成長に興味をもつだけでなく、「どうなるのかな?」「何ができるかな?」と予想する姿がありました。そのように考えることが、さらに子どもたちの興味を深めることになるのではないかと思います。

【活動内容】 五感を通しての遊び

○泥遊び

園庭に様々な種類の土を用意し、普段の砂場や泥とは異なる感触を感じられるようにしました。保育者が「どんな感じ?」と問いかけると、「柔らかい!」「ぐちょぐちょだ~」「気持ちいい」と思い思いの言葉で感じたことを表現していました。また、紙や服に泥の手型もつけており、目で見える形にすることも楽しんでいました。泥が苦手な子もいましたが、友だちの姿を見て指先で少し触ってみるなど自分なりに泥という素材に向き合おうとしていました。



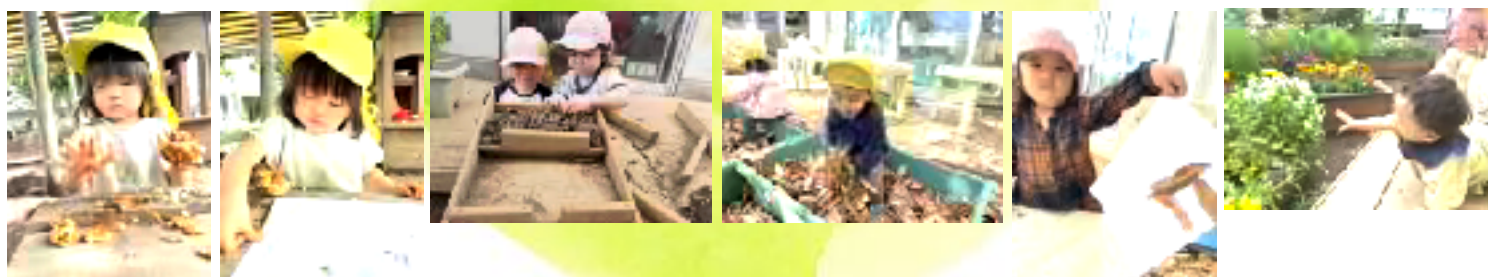
○水遊び

夏ならではの遊びができるよう、水を流して楽しむことができるよう、保護者の方にピタゴラ装置を子どもと一緒に作ってもらいました。ただ、水に触れて遊ぶのではなく、このような装置を使って水を流すことで、子どもたち同士で話し合いながら水の流れを考えたり、仕組みを考えたりする姿に繋がりました。



○自然物を使った遊び

園庭の自然物を使った遊びができるように環境を整えました。春は様々な花に触れたり、花で押し花をしたりする姿がありました。また、秋にはどんぐりや落ち葉を使って遊べるようトロ船や夏に使っていたピタゴラ装置を使えるよう用意しました。そのような道具が一つ増えるだけで、子どもたちの遊びの広がりが見られました。さらに、ザクロの実や落ち葉を使った表現ができるよう紙を用意すると、思い思いに表現する姿もありました。



○自然物を使った遊びからクッキングへ

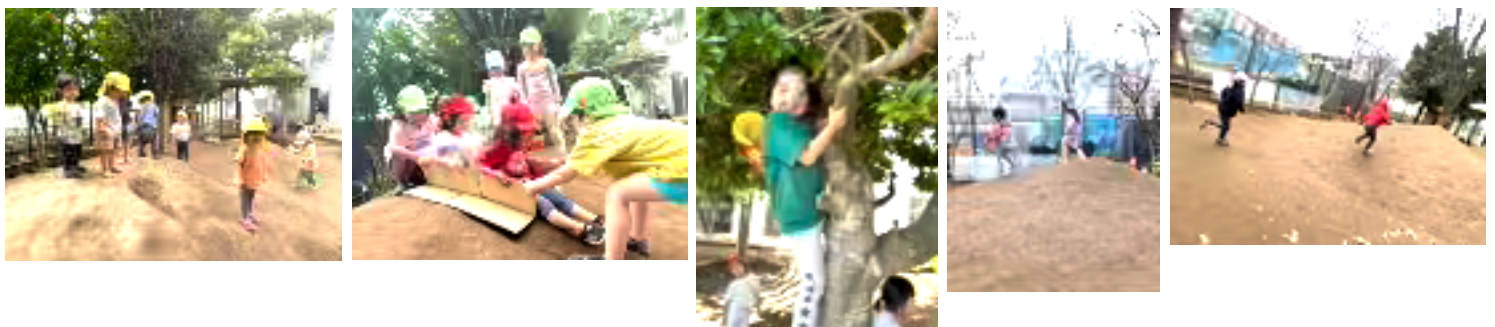
園庭で採れたザクロを使ってばななグループがクッキングをしたいという話になりました。何を作りたいか子どもたちと話し合い、ザクロのジュースとザクロの水まんじゅうを作ることになりました。自分たちで作り方を調べるだけでなく、作り方にもこだわり、あんこは小豆から煮て作りました。時間はかかったものの、決めたことをやり遂げる達成感を感じているようでした。



【活動内容】

○園庭での運動遊び

毎日のように園庭で鬼ごっこや木登りをする姿があります。築山の起伏のある中を走ることで子どもたちの身体の使い方やバランス感覚の育ちも感じます。そのような姿があるため、築山の整備をしました。築山が整備されたことで、さらに運動遊びを楽しんでいました。また、木登りをするため、安全を考え、木の剪定も行いました。剪定したことで、子どもたちがより安全に登れるようになりました。



【振り返り】

園庭での遊びが充実するように、また、身近な自然物や季節を感じる遊びを通して探究心が深まるようにと、築山の整備や木の剪定などを行いました。そのように環境を整えることで、子どもたちの遊びがさらに豊かになったり、五感を刺激されて次の遊びへの意欲が高まったりしていると感じました。また、ただ自然と触れるだけでなく、トロ船やピタゴラ装置などの道具を準備すると、自分たちで遊びを考えている様子がありました。紙を用意すると、実をこすりつけたり、葉っぱを貼ったりなど表現として楽しむ姿もありました。部屋の環境を整えることはもちろん子どもたちの探究活動には必要不可欠ですが、園庭の環境や自然を整備することの大切さも子どもたちの五感を使った探究活動には欠かせないことだと思いました。